

鹿児島の植物40

がんばりスギっちょ

植物担当 大屋 哲

春といえばサクラの季節。なんだか、気分がうきうきすると言う人もいますが、一方で、「これからの季節は憂鬱だ」と言う人もいます。「花粉症」で困っている人にとっては大変な時期になりますね。花粉症の原因としてよく名前のがる植物といえば、「スギ」でしょう。なぜ、スギは花粉症を引き起こすぐらい花粉をたくさんつくるのでしょうか？

それは、受粉の仕組みに関係していると考えられています。

サクラやツバキなどは目立つ花をつけます。これらは虫や鳥に蜜をあげる代わりに、花粉を運んでもらうのです。こういう花を



スギの雄花

虫媒花といいます。効率よく花粉を運んでもらうため、花粉の量は少なくてすみませす。

それに対して、スギは目立った花をつけま

せん。花粉は、風に運んでもらいます。このような花を風媒花といいます。虫に運んでもらうよりも、受粉する確率が低くなるため、花粉をたくさん作って飛ばすことで、受粉の確率を上げていると考えられています。「下手な鉄砲も、数打ちゃ当たる」というわけです。さらに、スギなどの針葉樹には、雌花から受粉滴という水滴を出して、花粉が着きやすいようにしています。ぬれた手で砂をさわるとよくくっつ



スギの雌花

くと同じ仕組みなのです。このように、いろいろな機能をもつことで、スギは生き残ってきたのでしょうか。

でも人間からすると「がんばりスギで、花粉をたくさん飛ばさないでよ!」と言いたいですね。

鹿児島の昆虫67

君は今どこに!?

昆虫担当 金井賢一

冬になり、昆虫たちが目立たなくなりました。コンビニの灯りにあられだけ集まっていた虫たちも、数える程度になりました。冬はほとんどの昆虫にとって、耐える季節なのです。

2012年1月22日、博物館フィールドワーカー養成講座・昆虫分野の活動として、蘭牟田池にカメノコテントウの越冬を探し



カメノコテントウの交尾

カメノコテントウ

2011年3月22日撮影

ウは成虫も幼虫も肉食で、ヤナギハムシの幼虫などを食べます。蘭牟田池では西側のヤナギの木で、3月末～5月まで成虫を観察することができました。幼虫も春に観察できましたが、文献では夏も冬も成虫で過ごすらしいので、おそらく初夏には成虫になっていると思います。

ナミテントウやカメノコテントウは岩の裂け目やエノキの樹皮のシワなどに潜り込んで越冬すると本には書いてあります。そこで実際に越冬しているカメノコテントウを見てみよう!という掛け声の下で実施しました。

ところが・・・、いません。ヤナギの木の表面も、木の根元に生えるカサスゲのヤブの中にも、少し離れたススキの株元にも、石垣の割れ目にもいません。ヤナギから20mほど離れた林の中を探しても、全く見つかりませんでした。蘭牟田池の西側は太陽の光がよく当たる斜面です。寒い時期、昆虫は体温が上がらないように寒い北側の斜面にいたい、そのような斜面も探しましたが、見つかりません。蘭牟田池より遠く離れた場所まで移動しているのでしょうか?今年の秋～冬の宿題です。



カメノコテントウの幼虫